

木野会報

KINOKAI

KYOTO SEIKA UNIVERSITY
ALUMNI ASSOCIATION

京都精華大学同窓会「木野会」

特集●座談会

私の時代の精華大学 【創立三〇周年を迎えて】
「こんナ——時代も——あーったねと」鼻歌なんぞ。あの開学当時を大いに語り合っ

数珠つなぎ

あの子、この人、懐かしの人。リレー近況報告

Teacher Voice

みんな元気が！ たまには遊びこいぞ



from KINOKAI

西日本支部・東京支部、本格的に活動開始

CAMPUS REPOT

〇日も待望の情報館・黎明館など完成

卒業生の仕事場探訪

今、こんなことをやっています

Who's Who

大いに盛りあがった。感激・感動の同窓会の宴



October 1997

私の時代の精華大学

創立三〇周年を迎えて

一九九七年七月一三日

会場 / 京都精華大学

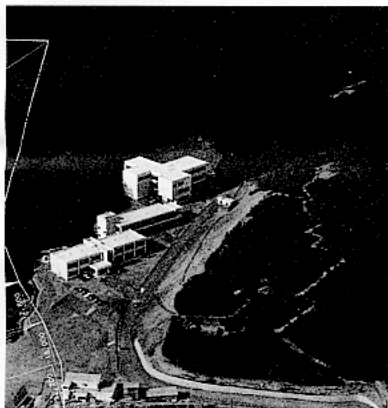


●司会
 善田康豊 (76年度美術科染織)
 1976年美術科染織入学
 ラクビー部 バスケットボール部
 木野祭 五月祭 朽木祭 学友会に關与する。
 京都精華大学同窓会「木野会」理事

●出席者
 赤坂 博 (68年度美術科絵画)
 荒賀依右子 (68年度英語英文科、旧姓 青谷)
 松本清茂 (72年度美術科絵画)
 宮城明和 (77年度英語英文科)
 栗島雅代 (77年度美術科デザイン)
 上奥恵美 (78年度美術科デザイン、旧姓 俄本)
 前田美千代 (78年度美術科デザイン、旧姓 前田)
 猪狩智子 (80年度英語英文科、旧姓 平井)
 林 哲生 (89年度人文学部人文学科)
 中川浩一 (90年度人文学部人文学科)

司会●まずは自己紹介とともにそれぞれの専攻での思い出とか、教職員とのエピソードをお聞きしたいと思います。また、本日スタッフとして立ち会われている荒賀副会長と理事の栗島さんにも折に触れて話を伺いたいと思います。私は司会をさせていただく七六年度染織入学の善田です。同窓会の仕事に携わらせてもらっております。在学時は事務局の亡くなられた田所氏に誘われてラクビー部に入りまして、その後バスケットにも関わり、よく遊び、よく学び、精華を十二分に楽しんできた一員です。それでは、赤坂さんからお話しをお伺いしたいと思いますので、よろしくお願ひします。

赤坂●赤坂です。同窓会の会長をさせていただいております。私の入学時は精華大学の学生数は英文科と美術科と合わせて二百人ほどでした。施設は今の五分の一ぐらいで本館と一号館、二号館しかなかったのかな。小さかったけど、先生とのつながりはものすごくありました。人数が少なかったたのでみんな顔見知りですね。先生も専攻に関係なく、英文科の先生でも自分たちの先生みたいなつもりで密度が高かったですね。学生生活は先生も含めてみんな兄弟みたいな雰囲気でした。そういう意味ではいい学校というか、いい教育の場だったなという気がするんです。ただ、絵画で言います



と、初めからおられた先生は今は斎藤先生だけになってしまいました。森本先生が来られたのはもう少し後です。金田先生も福井先生もお亡くなりになりました。芝田先生もかなりの高齢です。三〇年というのは長いようで短いですね。

松本●松本です。絵画コースで学びました。私はラクビーをやっています。その面での大学との関わりが大きく、そこから学生生活が始まったという感じ。抽象的な言い方かもしれませんが、私たちの時代が一番だと感じるのは、学生時代に一生懸命遊んで、一生懸命勉強したかどうか分かりませんが(笑い)、

一生懸命やったという自負があるんです。こんな感情は個人の心の問題であって一概に言えませんが、各人自分の時代が一番だという思いがあるから同窓会などに来るんじゃないかと思うんです。私の精華時代はどうなのかと言えは、ほんの数年前だったわけですが、その短い時間がいまだに印象深く心に焼きついてます。

アルバムの中のひとときを輝いたページというか、宮城●宮城です。同窓会の理事をしています。この大学を志望した動機というのは、四年制大学を全て落ち、浪人する気にもなれず仕方なく入学したのが本音です。高校生当時に影響を受けた日高六郎先生とか、鶴見俊輔先生、鶴見先生の場合、実際に精華で教えたのは奥さんの鶴見貞子先生やけど、そんな先生方が教鞭を取られているので決めました。それと、ポップ・デザインが好きだったので、片桐ユズル先生とか三浦久先生にも憧れや興味を持っていたのも事実ですね。上奥●上奥です。クラブは女子野球をしていました。大学って大人になる場所みたいに思っていたのが、すごい田舎に来てしまったって感じ。すごく自由だったけど、何か手を付けていいの分からない。美術が好きで入ったけど、私にとって何かとてもふわふわした時代っていう感じがして。

司会●若いピュアな感性のときにもものすごくいい環境

におかれたのかもしれないですね。そのふわふわしたというのは？

上奥●何と言ったかな。今までカリカリと受験勉強してた中から急にふわふわの時代になっちゃったみたいな感じで、意外と先生も「これをしなさい」という感じじゃないです。授業でも「次はこれをやるよ」と言っていて、いつの間にか先生がいなくなったり。学生と一緒にしゃべらなすを生生ししようとかいう話になつて、「え？」みたいな感じ。授業もさることながら、周りにいた人や先生の面白さとかが気持ちの中で精華のイメージとして残っています。

司会●その頃印象に残った先生とは？
 上奥●高島先生とか藪内先生とか松谷先生。男の先生は皆さん女の子には優しかったかなって(笑い)。
 前田●前田です。現在一人の子供の母で、毎日忙しくしております。この大学には中学の頃から行きたいと決めてましたので、念願のこ



善田康豊

ろに入れて大変良かったと思っております。今でこそ「精華大学」って聞いたらどこにあるかは皆さん存じなんでしょうが、当時は「どこにあるの?」「何学部があるの?」っていう感じでした。先生方は濃いお付き合いができて、高島先生、坪内先生、事務局の佐藤さんたちとタイヘ一週間ほど旅行したこともありまして、すごく思い出が多くて、明日まで仕上げなければならぬ提出物があれば泊まりましたね。先生も一緒に泊まってくれたんです。次の日、朝起きてお腹空いたから先生がイノダコーヒー店に行こうって、車三台ぐらいで三案の本店に連れていってもらったりとか。今の学生さんにはそんな体験はないかなと思うんです。だから、きれいな校舎でいいかもしれないけれど、そういうお付き合いができた私たちは良かったかなって思っています。

猪狩●猪狩智子です。先日の同窓会に少しお手伝いさせていたいたが縁で今日も参加させていただきました。英語は全然勉強できなかったんですけれど、田口瑛子先生のことをよく覚えています。女性と性の問題とかいう本を訳し、そのときは恥ずかしかったん



中川浩一



林哲生

ですが、結婚した今、すごく思い出となっていきます。植田勤先生の農業学も現在の環境問題に関連している、良い授業を幾つも受けることが出来ました。他にも日高六郎先生とか有名な先生がたくさんおられて、いい環境に恵まれたと思っています。もっと自分から勉強していけばよかったですね。二年間でした。

林●林です。今はなくなりましたが空手道部を作りました。日々空手の稽古に励んでました。僕は人文の一期生です。先輩がおらへんで東海もさす好き勝手にやらせてもらってました。結構大会とか出たんですよ。他の大学には「精華って女子大と違うの?」と言われてました。知名度は低いというのが感想ですね。

司会●人文自体の方向性とかはどうでしたか。見本がないから自分から開拓していかなければならないですよ。林●言ったらなんですけど、適当って言うんですか。司会●それなら美術学部の学生はどう思いました。林●美術の人から、「こいつら何してんの」という目で見られているな感じでしたね。興味を持って近づいて来られたこともありました。

司会●それは良かったこと、悪かったこと? 林●良かったと思います。独特な人がおられたので、でも、五月祭では引きました。酔っぱらえばっかりで、「何や、こじは」と思いました。これは負けてはおられないと思って飲みましたけど(笑)。司会●印象に残ったその当時の先生とかおられますか。

林●体育実技の栗原先生と中平先生。飲みにも連れていっていただきましたし、口に泡ためて説教もされたし、よくしはかれました。中川●中川です。人文学部というよりは、スキー学部生といわれていたとおり、殆どスキーばかりやってました。朝起きて学校に来てランニングして、昼から一時、二時くらいまで練習して、食堂行ってゆっくりして、夕方練習して帰ると(笑)。

司会●印象に残った授業や先生はなかったのかな。中川●上野千鶴子先生の社会学系のやつが一番印象に残っています。何が良かったかという点、社会学の授業をされているときにすごく楽しそうにお話しされる。だからそれがすごく好きなんだとか。面白いものなんだというのが伝わってくる。最初受けた時にきつと面白いものに違いないと思、その授業には出てみようと思いましたが、その人の話というのは聞いてみようと思いましたが、そういうのって、人に物を教えるのには大事なこともなんじゃないかなと思います。その後仕事で人に物を教える事になった時、自分の少ない知識を教えるよりはその仕事の魅力であるとか、やりがい、自分の思い入れを取り組む姿勢で表現する。そういうことが一番大事なんじゃないかと感じました。大学には細かいやり方を教えるとか、難しいような顔してつもらなそうに文字を黒板に書いて偉そうに話している先生とかいらっしやいましたが、そんな教える方ではなかなか学生には伝わらないのではないのでしょうか。上野先生には考えるというのはどういうことなのか、どのようにしてもの考えるというのかを教わりました。本を読んで知識を得るんじゃなくて、自分で見たもの、触れたもの、自分で入手した情報から知識を得られるようになったかなと思えます。

●「自由自治」って何なの?

司会●皆さん精華を楽しんで青春時代を謳歌しておられたようですね。林●学校も毎日来ていました。もう走ったり、腕立て伏せしたり(笑)。司会●赤坂さんの時代はどうしたか。赤坂●食堂のアルバイトのために僕も学校には毎日来てたけど、どうしても出ないといけないのしか出なかった。自治会を作って書記長もしていたので忙しくて

ね。小野先生の英語の授業の時に教室の後ろのほうでそわそわしていると、「赤坂、何か用事があるのか。出ていっていいぞ」ってね。出席だけを取り、あとはお許しを願って公認で出させてもらってました。邪魔になるから追い出されたのかもね。でも小野先生には英語でAをもらったんです。僕ね、中学、高校ずっと英語が2か3ばかり。大学ってありがたいところだなとしみじみ思った(笑)。話がちょっとずれちゃいますけれども、僕らの頃は七〇年安保がありまして、学園紛争でいぶんおめ、学費の値上げ闘争でこの精華大学をバリケード封鎖したことがあるんです。だけど先生も顔見知りですよ。バリケード封鎖しても、なんとなく迫力ないんだね(笑)。司会●何のためにバリケード封鎖をしているかという意志統一はあったんですか。赤坂●ありました。いわゆる全学集会を何回もやって、学生の意見を集約して「やりましょう」と、開学して間もない一、二年でなぜ学費値上げなんだ。「自由自治」という理念と学費という経済的な矛盾の矛盾を考えると幻想ではないか。その問題もクリアできずに何が自由自治なんだとね。結束力も今より高かったんじゃないですか。司会●ちょうど「自由自治」という言葉が出たんです。赤坂●赤坂さんが、皆さん自由自治って考えていましたか。上野●「自由



つていうのは先生の口癖でしたし、自治会の赤ボックスで学生が何人か集まってそういうことも言っていました。でも強制されることって何ひとつなかったですよ。自由自治というのがどういのか私とはっきり分からないんですけど。

松本●僕らはこの大学に入って野放図に好き勝手にやってきました。いくら自由でも自己責任は必ず取らなければならぬことは、誰もが心の中で留めていたと思います。だから飲み会においても、暴れたり騒ごうんざりする人もいたけれど、それなりに自分で責任を感じて対処していたつもりです。

司会●自由自治の問題でもだいぶ年代で印象が変わっているようです。僕らのときも自由だけが先行してしまい、意外と自由自治ってそんなに考えてなかった話を聞くと松本さんの年代で区切りが入り、自由自治そのものの受け取り方が変わっているような気がします。

●それぞれの木野祭、五月祭



司会●次に大木野祭についてお聞きしたいのですが。

赤坂●木野祭も僕らが第一回で、みんな一緒に出町柳から四條河原町まで仮装行列でパレードしたんですよ。英文も含めて、確か、



赤坂 博

「セロリ蔵からのスタート」というテーマだったかな。自治会で音頭取りをしたんだ。六八年

当時もデモとか何だとかが日常だったからね。精華大学もデモ隊組んで行ってたよ。そんな流れの中で十一月三日に大学祭をやるということで仮装行列したんだ。英文科は英文科のクラスで仮装行列のテーマを作り、統一テーマのもとにそれぞれ仮装行列をした。確かリアカーの上に山車を作ってた。今は五月祭というのがあがるでしょ。いつから始まったの。

菜鳥●七七年です。津下さん(74)、木野会西日本支部長)や山倉さん(76D、木野会東京支部長)たちが作った黒ボックスという小屋が崖の下にあったんです。文部省が四年制大学を認定するのに「自設の小屋があつてはいけないので撤去しなさい」というお触れがあつたそう。潰して撤去するだけでは面白くないからお祭騒ぎにして燃やそうかということになりました。それが五月だったから五月祭という名称で始まったんですよ。

赤坂●精華らしい動機だね。

司会●初めからあつたお祭という感じで、騒げればいいんだと勘違いしている人がいますよね。学内に二回もお祭があるのは珍しいしね。大学祭にしても、自由自治に関しても何にでも言えることで、伝えていかねばならない部分はあると思うんですけどね。

赤坂●僕らの頃は短大だったでしょ。後輩と接して積み重ねとか申し送りする期間が一年しかないんですよ。だからどうしても途切れ途切れになっちゃうんで

すね。美術が四年になり、四年制の人文が出来、これからはうまいいきそうな気がするね。後輩と接する期間が倍になるわけだから。

司会●英文科の人は「あれは美術の人だけがやっていて私達も入らなきゃいけない」という感じで、大学祭期間をアルバイトや休養にあてて過こしていたという話を聞きました。英文科の方に伺いますが、木野祭などに関して思い出やエピソードはありますか。

猪狩●木野祭……ちよつとすみません。ごめん。覚えてないかも。英文科でも下宿している人とかは結構楽しんでたんだろうけど。

赤坂●今は模擬店をやったりなんかするの、美術よりも人文のほうがどちらかという積極的なんでしょ。

中川●それでもやっぱり美術の人は迫力というか、パワーがありますね。美術と違つて根を下ろす部屋すらない我々は新興勢力だったのかもしれないけれども、対抗意識はありましたね。

荒賀●一期生の私の時代にもありましたね。確かに。先生自体が美術の



松本清茂



菜鳥雅代

ほうに力入れをしているという雰囲気を感じられて、「英文科も頑張ろう」「みたいな人、結構たくさんいましたよ。自分が積極的に出なかつたら置いていかれる。「参加しよう」という意識でいかないと、大学祭すら知らないうちに終わってしまいますね。

菜鳥●私たちのクラスに見知らぬ子が自分のデスク持つて形勢していたんです。「あんた誰？」て言つたら「私、英文」と言つてましたよ(笑)。

中川●でも、殆どは学校に用がなかつたらすぐ帰っちゃう。女性にはそんな人が多かつたと思ふんですよ。松本●話が変わるけど、木野祭にテレビが取材に来たとかいうことはなかったですか。

司会●ありました。キングコング作つたときだ。菜鳥●イベントの後にキングコングを放送局がどこかに売るはずだったのが、スタッフが火を吹くトリックをしている時に間違つて火が付いて号館の屋上から炎となつて落ちていったんです(笑)。それでウソジョー万円が藻屑の泡となつた。

赤坂●それは何年ぐらゐのことですか。菜鳥●七七年。いいキングコングできたからって売り込んだらMBSだったと思うんだけど取材に来たんですよ。テレビカメラを備えてナイロン掛けて祇園祭張りのカメラセティングして、カメラ二、三台で中継して、「あ、炎となつてます！炎となつてます！」(笑)。燃やすはずじゃなかつたけど燃えちゃつた。予定では周りを踊つたアラブのお姉ちゃんみたいなのが救助袋をくぐつてトラックの荷台に降りてきて、「ハクイ」と言うはずだったけど、燃えてもんだからみんな「ワンジョー万円が燃えてる」とて叫んでましたね(笑)。

司会●学生時代はアホなことをしたほうが面白いし印象も残る。今の学生にはそう言つてあげたいな。そこで精華らしさというのを少し考えてみたいのです。松本●大学というものは伝統を避けて通れないよな

気がするんです。精華の伝統というのは何なのか。木野祭にしても前の年代と後の年代とは雰囲気が違うとかで伝統や「らしさ」が途切れる。だから、底辺に流れているのあたりを精華らしくして伝えなければならぬのか、どのようにして伝統を守っていくかを考えねばならないでしょうね。

司会●難しいところですね。これは僕の意見なんです。が、やっている本人たちに関しては雰囲気は変われど、伝統が途切れようと楽しんでいるんですよ。その時代、その時代でやり方や手法が変わると、先輩方は面白くないと思うかもしれないが、その時代の学生は楽しいんですよ。でも根底に流れるスピリッツというのが、「面白くことやたらう」という意識を伝えていければ精華の伝統というのは消えない気がするんです。僕らの時代は「俺はアホやけど、賢いやつに負けへんで」とよく思っていました。「楽しみな、損やんけ」とクラブや授業や遊びに関しても思っていたんです。そういう意味での精華らしさや伝統を、どんな感じで思っておられるのかお聞きしたいなと思います。

林●僕らは人文の一期生だけに、美術と違って伝統というものがなかったんです。

司会●精華自体の雰囲気ってありますよね。精華自体に照らし合わせたらどうだろう。

林●教職員の方から、昔に比べて学生がおとなしくなっているんじゃないかと聞きましてけど、自分たちで作りに上げていく意志があまり感じられないですね。

中川●自分たちで開発していくという部分が少ないんじゃないでしょうか。大学に対する執着心なんか少し減ってきているとは思いますが、自分たちでものを作っていくんじゃないか、あるものを利用してやっているだけですかね。クラブであっても、僕らの頃にもあんな立派な施設はなかったですからね。施設があるがゆえに簡単に出来てしまっ、だからあるものを利用すればよい。別に削り上げる必要はないみたいな感じがあります。自分たちが深く入り込もうとする意識はある

とは思うんですけど、適当にこなして家へ帰って外で遊ばかなみたいな部分を感じますね。ただ劇る事をしたいけれども、余力が少なくて出来なくなってしまうのかもしれないですけども。

前田●少し失礼な言い方ですが、今の若い方は、楽しんで済むものならしないほうが得、言われてから行動を起すような世代になってきつつあるのかなと思う。

私たちのときは「じゃあ、こんなんしよ、あんなんしよ」という感じで盛り上げていったんですけど、今はちよつとそれに欠けるのかなって感じしますね。

上奥●私はそう思わない。美術は自分の教室があったでしょう。その中である程度生活がまかなえるというところ、そこだけでよかったらいいみたいなところがあつた。クラブも当時は少なかつたですよ。女の子が入れるクラブなんて殆どなかったし、英文科と接するクラブがもつとあればよかつたなと思う。今の人が悪いとは全然思わない。

司会●そういう点で英文科の方はどう思われますか。

荒賀●「君たちは、大学ですごく必要とされている。君たちがいないと大学は成り立たない」と亡くなられた柳島先生も常に授業で言われてたので、そういう意識がかなり浸透していました。学校のなかで何かしなくちゃいけない、クラブも作らなくちゃいけないという気持ちがあり、自治会や大学祭も眼中にありません。英文科だけでは絶対不可能ですし、お互いに協力するにしても満が何もないわけではない。だから



荒賀依右子

私たち英文科はすごく気負って、「美術科には負けられへん」という意気込みがありましたね。

●精華ファッションとは何だろう

上奥●英文科の女の子って、流行りのファッションで午後にはかき帰られるでしょ。青春を楽しんでいるというのか。私たちといったら、冬にはハンティング、夏にはゴム草履で汚い汚いTシャツ。女の子でもそんな格好でぞろぞろキャンパスを持って歩いているのになら、いいなあ、いいなあ、男の子が車で迎えにくると、「いやッ、やっぱり英文科って違うわ。私らって何でこんなに不幸なの？」みたいな(笑)。

司会●じゃあ、流行りものについての話をしましょう。

古い方から年代順にお聞きします。

荒賀●あの頃は大学闘争の時代だったので、ヘルメットが流行りましたよね。あとね、今の若い人たちが着ている重ね着ルック。ちょうど私たちが大学のときに長袖のTシャツに半袖のTシャツを重ねたりしてたのね。



松本●ファッションでいえば、ヨーロッパアンタイプというのか、ラッパズボンみたいな裾の広いのとかロンドンブーツとかいう踵の高いハイヒールの靴。それとアメリカタイプというのかアイビールックがリバイバルした時代だったかな。VANとかみゆき族とか。そういう感じで、二手に分かれてましたね。ギター持って音楽やる人は殆どヨーロッパアンタイプで、Tシャツとラッパズボンや前ボタンジーンズはいてたね。

宮城●英文科の人が奇麗で派手な恰好をしてたと言われたけれど、素朴な人も多くいたんですよ。流行やお洒落にはあまり気を使わない人もいれば、擦り切れ色褪せたジーンズを好んではいいた人もいた。大半はサーフィンをしないと聞かれるサーファーが溢れ、アウトドアという言葉が定着し始め、ナイキのシューズが目につくようになり、冬になればダウンジャケットが活躍し始めた時代でしたが、水商売の女性のように厚化粧して派手な恰好をして

いた人もいたし、



宮城和明



前田美千代



猪狩智子

ニユートラやハマトラ

をうまく着こなしていた人もいた。美術の人でも、絵の具がついて汚れないかという心配をするほど洒落た洋服を身に纏っていた人もいた。だから、一概に英文は奇麗な格好の人はかりなんて、印象としてはそうは思わないですけどね。

前田●手作りっぽいのが多かった。値段の高い靴を買うのじゃなくて、バレエシューズを好きな色に染めて履き、パーマをかけるのじゃなくて、家で三つ編みして、ゴムがいつぱいぶら下がった状態でそのまま履いて、次の日にゴムを取る。それがすごく流行っていて、毎晩やりましたね。

猪狩●流行りはやっぱりトラッドとか、ニユートラとかで、私もそんな服を着ていました。美術学部の人だと思っただけ何やっても様になってる女性が多い。幼稚園のスモックみたいなものを上手に短く着て、ミッキー・マウスの幼稚園かばんを持つてる。でも、様になってるんやわ。薄いピンク色だったかな。いつも彼と手をつないでいてね。

女性一同●羨ましい。

中川●僕らのときはアメリカジ、波カジみたいなのが流行ってました。そこで、授業中の調査みたいなので「人文っぽいファッション、美術っぽいファッション」という統計を取ったんです。美術っぽいファッションの人の四割以上が人文で、人文っぽいファッションのうちの半分超えた人が美術学部だった。意外と人文の人と美術の人のファッションの差はないんだ。

●私たちが精華に望むもの

司会●そして、来年初立三〇周年とまだまだ歴史の浅い大学なんだけれども、今後この精華がどんな感じであってほしいかという希望などありましたら、最後にお聞きしたいと思います。

中川●人文、美術にかかわらず、卒業したら自分自身が作品だと言えるような発想を持って大学に行ってほしいし、そういうことができるような大学になってほしいなと思いますね。

猪狩●郊外に移転される大学が目立ちますね。ここは以前から環境もいいし、来たらかほっとします。いつまでも存在感のある大学でいてほしいし、故郷みたいな面も残しておいてほしい。

上奥●精華の中だけでまとまらずに、他の大学とコミユニケーションや接触を持ち、その中で精華の特色を高めていってほしい。精華のいいところをいろんな情報を交えて大きくなってもらえいいと思います。

前田●コンビニや喫茶店が周りにできていなくなったのが私はすごくうれしかったんです。卒業してもドライブがてらに子供連れで、「ちよつと寄りたいな」という気持ちがあるような大学であってほしいですね。そして、縁をなくさないでほしい。それが一番です。

松本●この大学に入学したときに、共同体というのか、「村」



上奥恵美

という感じがしたんですよ。「村的共同体」というのをずっと僕はエンジョイしてきたし、懐かしかったんですよ。僕らの環境から村はだんだんなくなっています。でも、村という共同体を僕は維持してほしいなと思うんですよ。個人ばかりを大切にしていなくても取っ払ってオープンにしてしまうと、人と人とのつながりがなくなっていくような気がするんです。それと、世代に差があるという話もあったんですが、偏差値の問題で一定のレベル以上しか入れないことから雰囲気が変わってきたのではないのでしょうか。

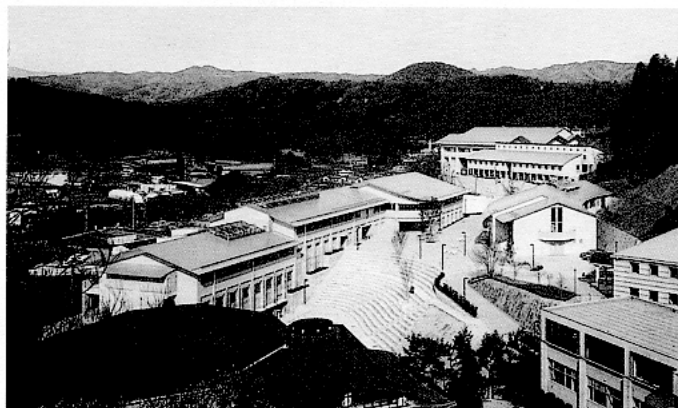
宮城●同窓会理事の立場での発言になるかもしれませんが、木野会に馴染んでいない教職員の方がまだまだ多いと思うんです。こちらからのアプローチにも問題があるかもしれないけど、将来的なことを考えると危機感を感じますね。せっかく卒業生が同窓会に来て、お目当ての先生に会えないと当て外れだし、先生にしても教え子の姿がなければがっかりしてしまいます。ある教職員の方が聞いたのですが、人文のみならず美術でも昔のような学生とのつながりが希薄になったと言われているんですね。個人主義が横行する昨今の日本社会では群れるのを嫌う傾向があります。余りに水臭いと感じることがあります。七〇年代中頃の入学案内に、精華では時に事務局で、教職員と学生がまみえて和むと記されていましたが、そんなアウトホームな雰囲気は忘れられないと思います。

荒賀●今日もこうして世代を越えて皆さんと本当にいろんな話ができるのは、同じ大学で学び、共通した精神からスタートしているからでしょう。精華の本来ある精神とは、本当に自分がここで必要とされており、私たちがこの大学を必要としているという自信です。そんな精神を大学も学生も持ち続けてもらいたいです。

司会●皆さんがお話しされた自分の時代のことや精華に対しての様々な印象をお聞きしまして、精華が好きなんやなあという感じを受けました。年代を飛び越え

ても基本的なものこそそんなに大きく変わっていないような気がします。それが精華の一番いいところだろうなと思うんです。皆さんがこの精華に何年か在籍して、「精華に関わってよかったな」というのがすごく伝わってきました。今後、この大学がどうなるかわかりませんが、皆さんの総意が伝わって良い方向に向かい、学生の顔もはつらつとした顔であり続け、卒業生も頑張って何かやっていけたらいいと思います。社会に出るといろいろ状況が変わりますが、精華の精神とか伝統とかを忘れずに頑張っていきたいと思います。本日はどうも、ありがとうございます。

▼イラスト 藤森千景(旧西井)



RS VOICE



お元気になられて何よりです。お体大切に！

私自身が精華にきてからもう22年になります。ほとんど進歩してませんが、とんでもない経験でもありました。

ティーチャーズ・ボイス

旅人の碑

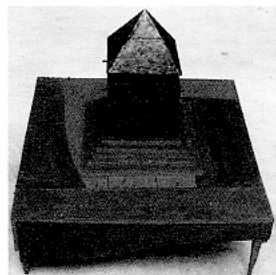
小林陸一郎

美術学部長
立体造形



八月末より展覧会のため、東京に滞在していたのですが、宿の朝食のとき突然ダイアナ元妃の激突死がテレビ画面に登場し、びっくりしている間もなく、マザーテレサの死が報じられ、二つの象徴的な死をこの世紀末にみる思いがしました。そして二年前の阪神大震災やサリン事件が生々しく思い出されます。また今年の神戸での少年殺人事件等、あまりにも刺激的な出来事が続くことやその報道の工スレート化を見ていると、ひとびとの平凡な日常はどこかに追いやられてしまいそうに感じます。

九月六日
ところで私の制作は現在「旅人の碑」という題名で進行し



ていますが、数年前に書いた拙文を次に述べて少しでも理解を深めることが出来ればと思います。

人は生れたときから、光や風、音、虫や植物の形や色、匂いなどに出合います。自然との出会いから成長しては、ひととの出会いがあり恋をし悩み、そして人生の旅をして行きます。自然のなかにある壮大なムダを思える不思議、花はなぜ無数の色を持つているのか、蝶の模様はなぜあんなにきれいで多様なのか、人を含む動物や植物の無数の不思議 不思議に出合っって人は感動します。感動を立体として表現すれば彫刻になります。人生という旅のなかで出合った感動を「旅人の碑」として造形することに尽きせぬ興味をおぼえます。

九月十三日

My Life in kyoto

Edith Shiffert

When Seika College began in 1968 I had been teaching Doshisha since I came to Japan Sept.13,1963. Friends of mine also teaching at Doshisha were Yanagishima-sensei,Ikemoto-sensei,and Uda-sensei. When they decided to start a new college, Seika, I was very happy to be invited to move to Seika,too. The location in the north hills of Kyoto was beautiful and peaceful and their ideas for a new style school were admirable I was thankful to be included on their faculty. I continued as a professor there until 1983 when I retired at the age of sixty-seven.

After retirement I remained in Kyoto with my husband Minoru Sawano. We traveled a lot as long as we could, spring trips to Hawaii where I lived from 1938 to 1945, and usually on to Los Angeles to visit my mother. Also we went to Hong Kong, Macao, Alaska, Guam, and many places among Japanese mountains where we liked to hike and explore the wonderful scenes of Japan.

After my mother had died and we were getting too old for travel, we continued enjoying short walks in Kyoto, a place where I have always enjoyed being. I have continued my work of writing poetry and in 1997 published my fifteenth book, at the same time having three long poems in the Kyoto Journal No.34 That same spring I also gave a public reading from my poetry at the Kyoto International Community House at the age of eighty-one.

Though it is difficult for me to walk, I still enjoy frequent lunches out with my Meiji husband Minoru Sawano who was born in 1911. We feed friendly birds at home and know all the neighborhood dogs and cats. From time to time American poets visit me. I listen to much music at home. And I read and study as much as my old eyes allow. We are happy and thankful for the good lives we have had and hope to have for a little longer. Always I look for and appreciate trees and flowers of the changing seasons. And continue writing.

At present two of my books are available at Maruzen Bookstores, both published by Charles E Luttle Company, Anthology of Modern Japanese Poetry,1972, and Kyoto Dwelling,1987. (Maruzen 4th floor, books on Japan in English poetry.)



TEACHER

中平佳男教授
学長補佐・スポーツ演習

藤井義昭氏
文化情報課

梶川よ志子助教
人文学部・英語

佐藤正幸氏
事務職員・国際交流課課長

栗巣 満助教
教務部長・スポーツ演習



たまには、顔をみせてくれ!



いつもの笑顔は変わりません。



みなさん お元氣ですか?



会於京都。亦楽也。



精華も変わった、自分も変わった。違いにきて!!

恐るべき急激な日本の経済成長の影に、様々な犠牲があったことについての認識は、今日常識となりつつある。経済発展(圧倒的な企業論理)により我々が享受している今日の幸福には感謝しながらも、永久に続くはずのない拡大神話を冷静に分析することの重要性が増しているように思う。

大学は学校法人であり企業体でもある。精華の場合は日本の高成長長期からやや遅れて、急激な規模の拡大を経験した。ここに三十年ほどは大きな変化を幾つか乗り越えてきた。必ずしも経済成長の後遺症と単純に比較できるわけではないが、大小種々の混乱に直面していることは事実であろう。卒業生の皆さんはそれぞれ在学した時期によって、精華に対して様々な感想を抱いておられることだ



一番の武器
鹿野 健一
事務職員
学生課

う。開学もなく学生生活を送った方々と最近卒業した方との間には印象に差があるのかもしれない。ただし精華の規模や姿が変化しても、依然として持ち続けている個性は基本的には変わっていないのではないかとと思う。

学内にはそのことを快く思う人と、そう思わない人がいる。私は、「基本的な個性の良質な部分」(少なくとも私にはそう思える)がとも私には入っている。今後精華の資産となるものなわけで、かなり大きな割合を占めるもの一つがそれではないか、とすら思っている。業界内ではうんざりするくらい「大学の危機」が繰り返されるが、それに対する精華の一番の武器は、「基本的な個性の良質な部分」ではないかと思う。

「環境」、「共生」、「人権」などのキーワードを企業が真面目に使い始めて久しい。一方、「効率性」、「経済性」、「企業論理の導入」などが大学改革の議論の中で語られることは珍しくない。大学の欠点は反省して正せばよくなるが、そこへ気軽に企業論理を持ち込むのは、本当に正解だろうか。卒業生の皆さんどうお考えになりますか。



さようなら『精華の星』田所伴樹氏を偲んで



事務局教職員の田所伴樹部長が平成9年6月1日午後10時53分、肺ガンにより逝去されました。54歳。1968年の開学以来、事務局に勤務され教務課、入試広報課、就職課の各課に於て手腕を揮るわれ、事務局長、学内理事も歴任されました。そのかたわらラグビー部顧問としても活躍、教職員はもとより学生・卒業生からも厚く信頼され、学内外の多数の人々に慕われておられました。

6月4日・5日、日本キリスト教団平安教会でのお別れの会では、大学関係者・学生はもとより卒業生や縁あって田所氏と関わりのあった方々が、早すぎる死を悼みながら最後の別れを告げました。

- いつもメガネの奥で、にっこりとされていた優しいまなざしが心に残っています。天国から精華をお見守りください。 75L 箱田智子
- 度々バグゲット先生んちで、大騒ぎするたびにきっと安眠妨害してしまいます。後免なさい。安らかにお眠り下さい。 80E 西田裕香
- 天国で在学生や卒業生を暖かく見守っててください。 78D 前田美千代 (前田)
- 大変驚いています。昨秋、木野祭でお目にかかったのが最後になりました。心からお悔やみ申し上げます。



- 72T 吉田真弓 (三ツ柳)
- いい男だった。 83D 吉津雅一
- 入院中にお見舞いに行けなかったのが残念。「精華の頭」がなくなった。 78D 中田昌宏
- いつでも学生の気持ちを大切にしてくださいました。 70P 前田好雄

●ヨーロッパ旅行の際、ユネスコの知人を紹介していただき本当にお世話になりました。事務局前でキャッチボールをされたお姿が想い出されます。 72P 豊田初美 (江唐)

“また、街中で会いましょう”

先日、田村先生から、私宛の矢ヶ崎先生からのメッセージが送られてきた。9月17日の日付け、約1年前に先生が病床に書かれたものだっただけに、何度も読み返しては、その度に私の目頭は熱くなってしまっている。今考えてみると、タイ、フィールドワーク期間中私達は食事と一緒に出かける時以外はほとんど怒られっぱなしであったような気がする。けれども、あらまし注意を促した後は、必ずといっていい程私達学生を判断に任せてくれた。そういった時の先生が決まっしめった事でも忘れられない思い出となりそう。メッセージの最後にあった“又街中で会いましょう”という言葉が静かに私の中でこだましている、おかしも本当に会えそうなんな気がする。時折、そうしたい気持ちを思い出しながら、ほんの少しずつでも前へ進んでいきたい。

—先生、本当にお疲れ様でした。そして、ありがとうございます。—

93L 松井千尋

矢ヶ崎先生を偲んで



平成9年3月7日午後8時25分、肺ガンのため逝去されました。平安女子学院短期大学教授のころより非常勤講師として京都精華大学の教壇に立たれ、1983年より専任教授となられ、英米文学講読やアメリカ現代文化などを中心に教鞭を執られてきました。中山容のペンネームで詩人として「ポップ・ディラン全詩集」(片桐ユズル教授との共訳)「1960年代のアメリカの女流詩人たち」など多数の訳・訳編書を残されました。

矢ヶ崎先生に教わったこと

矢ヶ崎先生は、中山容というペンネームをもつ翻訳家あるいは詩人として知られているが、僕にとっては、研究者だった。満足に英語も読めないのに、アメリカ文学や翻訳を勉強したいと言った僕を、決して嘲笑せず、いろいろな研究テーマを与えてくださった教師でもあった。自由で新鮮な発想をする中山容にひかれた人も多いと思うが、僕はそういう面より、しっかりした語学力と英米文学や文化、社会にたいする造詣の深い研究者として矢ヶ崎教授に多くを教わった気がする。「アメリカ文学をやるんだったら、文学史として出る主な作品くらい、原書で読んでないと、もの役に立たないよ」と、僕はよく言われたものだ。そして、僕が「読んでいること」を前提に、一緒に翻訳の仕事もさせてもらってきたから、とてもきつかった。やっ、と、ターケルの「人権問題」を共訳で出版し、次の仕事も決ったとき、矢ヶ崎先生は亡くなられた。そして、僕は「文学史」に出てくる主な作品のほとんどを原書で読んでいる。とはとても言えない。また、精華に行くたび、何か寂しい。

83E 田村博一(人文学部非常勤講師)

矢ヶ崎先生へ…タイからの手紙

先生、天国の暮らしはチェンマイより楽しいですか?ここに居るとフィールドワークでお世話になった時を思い出します。とにかくやさしくて他人の事を先に心配する先生は、表は弱くて「学生さんには関心ないよ」といった態度をとってらしたけど、本当は私達の事で一晩中悩んだりしてました。私達も密かに「ヤガさん」なんて呼んで親しみを感ぜていた事、御存じでしたか?何度も私達を食事に連れて行って下さいましたよ。そしてお酒に酔っては「家族なんてさ」とおっしゃりながらも、奥様との出会い。息子さんの受験、娘さんの結婚式の話を楽しくそうに話してらした先生を私は知っている。私達の事を「ちょっとはかわいいかかって思い始めたらフィールドワーク終わっちゃった」とおっしゃった時、とてもかわいいんだと解釈し、大変うれしく思いました。最後まで私のタイ留学を心配して、ふるえる手で推薦状を書いて下さり本当に有り難うございました。63才の御誕生日に、「こんなことしなくたっていいのに!」とおっしゃりながらも大事そうに私達からのプレゼントを抱く先生の写真を時々ながめ、先生にも見せてはと、がんばっていますから、どうぞタイより色々な国でこれからも見守って下さい。

93L 清口 愛

告

『97国際マンガ展』

(京都精華大学主催、環境庁、京都府、京都市、朝日新聞社など後援)

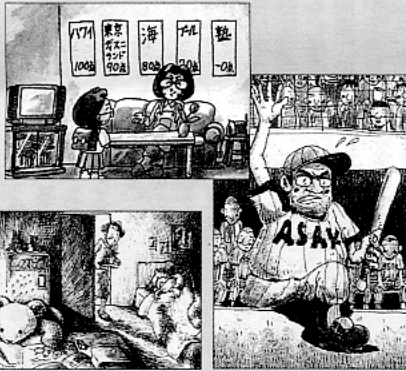
京都国際マンガ家会議の議長でもあるヨシトミヤスオ教授が、温暖化する地球をテーマに、国内外のマンガ家に呼びかけ十二月一日から十日まで京都高島屋で「97国際マンガ展」を開催する。



ヨシトミヤスオ教授

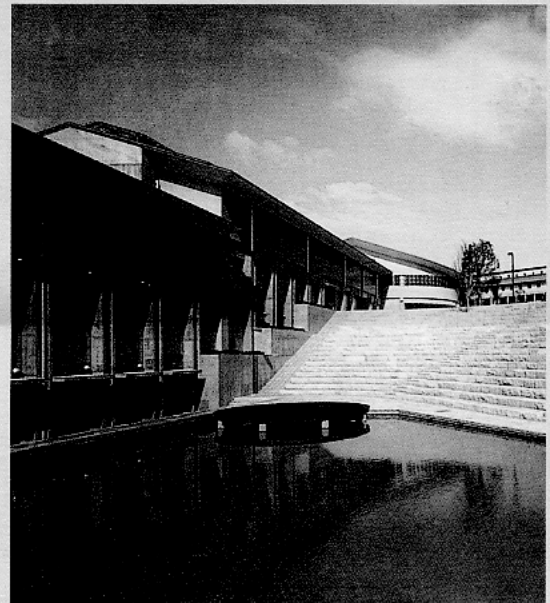
なんだか宇宙規模の 元気が溢れる、 デザイン学科マンガ 専攻クラス

今年十二月に京都市で開かれる気候変動枠組み条約第三回締約国会議(COP3)を前に、マンガ専攻クラスが活発に活動している。



一九七三年精華星に使命を受けてやってきたヨシトミヤスオ教授隊長が近ごろとても忙しい、学生隊員達は地球の体温や外傷の具合を、ひとこまマンガで逐一報告し、大学内のみならず社会に向かって警告を発しなければならぬ。万人に伝えられるマンガならではの指令であるのかも知れない。またこの夏京都をわかせた第七九回全国高校野球選手権では、大学院生が新聞紙上で筆を添えた。留学生も母国の新聞などに風刺画を掲載する傍ら、歴史や社会の矛盾をテーマに作品を輩出している。

情報館・黎明館・テニスコート竣工



誰もが待ち望んでいた施設が館内の設備も整い、九月十一日学内外の関係者を招き披露された。披露式では、笠原芳光理事長から「精華で一番早く日ざしが当たる校舎である。」と館名となった黎明館の意を式辞の中で述べられた。続いての設計担当、上田篤教授の建物概要説明では、現代の情報化時代にたちむかう最新鋭の建物や設備だけでなく、それをとりかこむ自然に配慮し、地域社会とも共存してゆける空間を考えたこと述べられた。また、設計・施工に当たられた(株)都市工房・三井建設(株)各社に感謝状と共に、内田晴之(73S)氏、芝田耕名菅教授の作品がそれぞれに贈呈された。



情報館 (Library and Information Center)

9月16日情報館が開館しました。卒業生も学生と同じように利用できます。まずは、情報館受付カウンターでIDカードを作ってもらいましょう。これであなたもVIP! 2F情報センター「参考奉仕カウンター」では利用方法について何でも相談できる。また各種コピー、情報検索を目的としたインターネットやCD-ROM、図書の貸借もこの階でおこなわれています。1FAVセンターではCD、レコード、ビデオ、LDなど約1万点

備えられている。そのうえ100客の個人視聴用ブースで自由に視聴できる。3F閲覧室には10万冊の図書と350席の閲覧席が自然に読書家へと導いてくれるような、そんな雰囲気を感じられます。さあ、精華の新しい顔を尋ねてみてはいかがでしょうか。開館時間 月曜～金曜……9:00～20:30 土曜……9:00～18:00 休館 日曜日・国民の祝日・大学が定めた休日

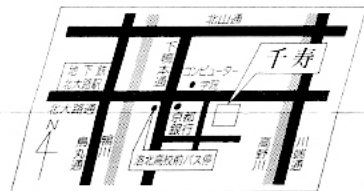
サロン・ド・千寿 senju



北大路通り洛北高校前交差点を東へ、昔ながらの和菓子店や商店の立ち並ぶ中に、一際華やかなドレスが飾られたショーウィンドーが目飛び込んでくる。女性ならずとも一瞬目を奪われる。そんなBRIDAL RENTAL BOUTIQUE サロン・ド・千寿をご主人と共に経営されているのが英語英文科72年度生の井倉梨枝子(旧姓岡沼)氏である。

ブーケのリース業を始めたのがきっかけとなり現在ではブライダルを演出する小物から衣裳まで幅広く備えている。人と人との出会いを大切に重んじ良質なものを低価格で提供しブライダルを思い出深く演出する手伝いを真髓と考えている。その思いが伝わってか、千寿の客の多くが以前に利用した人の口コミで訪れると言う。中には「いろいろ聞くと高いので……」と言う客もいるが、良いものを安く借りるか、安物を高く借りるかと言う価値観を知ってもらいたい。衣裳に合わせて苦痛を感じる貸衣裳ではなく、身体に合わせた衣裳で記念すべき日を迎えてほしいと井倉さんは考える。

また、千寿では誰でも参加できるユニークな企画が四季を通して催されている。スキー・海水浴・オールディーズパーティーなど、未婚、既婚を問わず一緒に思いっきり楽しんでストレスを発散してもらいたいそうです。そんなサロン・ド・千寿、衣裳のことで遊びのことで、まずは気軽に訪ねてみてはいかがでしょうか。

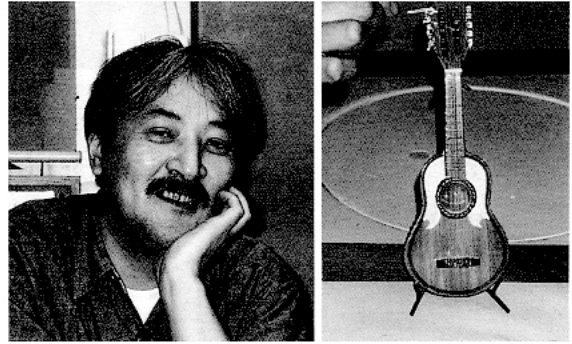


北大路通洛北高校前交差点東100M南側

Bridal Salon de Senju
千寿

営業時間AM10:00~PM7:00
〒606 京都市東区下地本町19-3
Phone 0753702-3388

Artistical Studio



今、静かなブームを巻き起こすミニチュアアートで、ギター・マンドリンなど弦楽器を作られているデザイン科70年度生の吉田和則氏です。在学当時から音楽が好きで'70年の万博・電気通信館で演奏するほどに活躍され、音楽に没頭しすぎて学校から遠のいた時、デザイン科の先生らに呼び出され、今後の方針はどうするのかと詰め寄せられた。プロにも誘われたが、音楽の道へは進まず、学校に残り、株式会社七彩工芸に精華からの一期として勤める。色々な仕事に携わり、技術も習得したが、もっと仕事の範囲を広げ、自分の足跡を残したい、自身を新しい世界でどこまで活動していけるか。そんな思いが大きくなった時、自分に納得のいく事がしたいと、16年間勤めた七彩をやめ独立した。

音楽好きがこうじて、趣味で小さなギターなどを作り始めた。作品は後輩に気に入られ、第一作目のバンジョーをプレゼントしたのだが、壊れてしまい修理を頼まれ戻って来た。この作品が切っ掛けで弦楽器作りが始まったので、どうしても手元に残しておきたくなった。それ以降、次々と新しい作品を作った。家族の心配をよそに、作れば欲しいと依頼注文が増えてもう一つの本業となった。他に、現代アートの作家から技術的な事を頼まれ、大きなティラノザウルスや小さなハツカネズミなどの作品も手がける、この二つの本業に追われながらも充実した日々を過ごしている。

手の平に乗るほど小さなものに魅力を感じ、思わず笑みがこぼれるほど見いってしまう。吉田さんの手から生まれる限りない夢を託してくれるこだわりの作品です。

京成大丸7階にて展示販売をします。期間は10月22日(水)~10月28日(火)まで、又、10月から大阪うめだ阪急百貨店9階、ホームクラフトワールド「セッセ」ミニチュアクラフトコーナーもオープンします。常設展示販売も予定されています。是非お楽しみに!!
アトリエ 〒616 京都市右京区北嵯峨北ノ段町50-7



京都ホテル

営業本部 宴会セールス課
廣田 晋吾

株式会社京都ホテル
〒606 京都市東区下地本町19-3
Phone (075) 211-5128 直通
Fax (075) 211-2525
http://www.kyotohotel.co.jp
〒606の211、森谷・千寿まで

1993年 京都ホテル入社
入社してからずっとフロントで仕事をしておりましたが、今回営業の方に異動になりました。新任のピカピカの一年生ですが、ゼミ単位の同窓会や学部単位の宴会など少人数から多人数まで人数にあわせての会場もご用意しております。ご婚礼・ご宴会、ご宿泊、レストラン全ての面において割引させていただきますので、直通TELにお問い合せください。勉強させていただきました。

割引させて
頂きます!

京都精華大学同窓会「木野会」
第1回 関西地区同窓会

WHO'S WHO

京都精華大学に籍をおいたきっかけは？

・他の大学受験に総て失敗して。
いまだにわかりません、これは縁ではないでしょうか。
おもしろそう。
・性格上、都会は合わないのと、縁をみないとイライラするのでも中学の頃から精華へと決めていました。
先輩が通っていて、とても楽しそうだったので。
・小学生のとき、マンガクラスがある大学と興味をもっていたが高校の先生に勧められてびっくりにしたが、きてよかった。
・人文学部に魅力を感じて。
・少数精鋭の授業にひかれて。

在学中のエピソードは？

・立体のコンバ、豚の丸焼き。
・岩倉の教習所を過ぎるとそこは雪国だった。
・一生の友と一生の夫をここで手に入れた。
・鹿を見た、猿を見た、学内で・・・
・初代ガンダムの上映会をTV放映中に学祭で実施できた。沢山見に来て載けて嬉しかった。
・ワンゲル部の鉄人レースに3回だった。
・木野祭の最終日の殺人フォークダンス。
・硬式テニス部の発足、2年目に100人になってビックリ。
・ウベカルステンさんの影響でドイツ語を覚えてドイツへ旅行にいった。

木野会
Kyoto Seika
1997.6/22
ザ・リッツカー
The Ritz-Carlton Os
ザ・グランドホールルーム

SEIKA



現在の京都精華大学に対するイメージ・希望は？

・英文科が無くなったのが淋しい、いつでも訪ねられる空間をつくってほしい。
・英文科の復活を希望する。
・自由だ！
・卒業生も気軽に海・朽木の施設を利用したり、参加できるイベントをたくさん催してほしい。
・優しい人間関係を築けるいつまでも変わらない精華大であってほしい。
・校舎も設備も充実しているが、他の大学と同じような一般的な感じの人が多く個性が均一化してしまったよう！

Alone!

去る6月22日、ザ・リッツカールトン大阪にて関西地区同窓会が開かれました。同ホテルは今年5月23日にオープンというタイムリーなものでもありました。午前11時30分の受付開始と共に参加者ひとりひとりの写真撮影が行われた後、プロの司会者として活躍中の山田美（77P 旧 山下）氏の司会のもと、赤坂博木野学生会長の木野会の活動紹介を含めた挨拶、中尾ハジメ京都精華大学学長挨拶に続いて、学校法人木野学園法人本部長 杉本修一氏の乾杯の発声とともに始められました。宴半ばには、出番の合間をめぐって吉本興業所属の漫才師ちゃんぼらん大西（79P大西幸治）氏も駆けつけてくれ、壇上で先生方や留学生の卒業生などからいろいろな話題をインタビューし、おおいに会を盛り上げてくれました。最後には各分野に別れて、今年6月1日他界された田所伴樹氏の遺影と共に記念撮影を行いました。約200名の参加者が真新しいホテルのプロアード、和やかに歓談のひとときを過ごすことができました。閉会后、参加者全員に斎藤博前学長の顔をプリントされたTシャツが配布され、それぞれが旧友や恩師と、また、ここに来て初めて知り合った先輩や後輩たちと二次会、三次会へと宴は続けられたようです。全卒業生の3分の2を占めるこの地区での開催に際して、卒業生をはじめ、大学職員の方々に各分野で多大な協力を戴いたことを感謝したいとおもいます。



心に残る先生・言葉は？

笠原先生に卒業の時、就職するに当たり「どんな小さなことでも一生懸命やりなさい、必ず誰かが見てくれますよ」とおっしゃっていた事が、仕事の中で支えになっています。

目的は手段を美化してはいけません。

吉村正郎先生「継続は力なり」。

松浦先生、大変お世話になりました。

稲浦先生は、いまでも黒い服ですか？

デザインのおちゃんら、がんばってるか？

学費値上げがあった時、岡本学長が学生に「申し訳ない」と言われたことが心に残った。

学長もこんなことを言うのかと素直に感じた。

Get Back to
Get Back to
Get Back to

Get Back to

現在のあなたの近況は？

橋爪先生の影響を受け、つい大和ハウス工業に入社したばかりに深夜まで働いています。

中学の美術の先生、子供と楽しく絵を描いています。

母、3人の子供の中で1人位精華に行ってほしいな。

岩倉でデザイン事務所をしています。

絵画教室を開いています。個展・グループ展も年1〜2回開催しています。

気が付けはすっかり古株、「3年で退職、海外進出」が「働くな人生」一体どこへ行ったのでしょうか。

マークアップ・アーティストの試験に合格しました。



89L 長谷川有希です。リッツ・カールトン大阪に勤めています。よろしく。

Don't Come

懸賞作品募集

「表紙デザイン・文中カット大募集」

木野会会報誌では、表紙デザイン・文中カットを広く募集しています。表紙全面を、思い切りあなたの絵・デザインで飾ってください。また文中で使えるカット画もお気軽にお寄せください。

会報誌名称については、校章も校歌も無い自由自治の精華の同窓会会報に、あえて、名称を決定しておりません。表紙・カットと共によい名称をご応募ください。

●賞金・賞品

表紙デザイン1点…3万円

文中 使用カット1点に付…テレホンカード

●応募方法

表紙サイズ：縦25.7cm×横18.2cm

技法：イラスト画、写真、版画など自由。ただし色は一色刷です。

カット画：自由に描いてください。

作品の裏には必ず作品のタイトル・コメント・住所・氏名・学籍番号・電話番号を記入してください。

●締め切り 平成10年4月末日必着

●宛て先

〒606 京都市左京区岩倉木野町137

京都精華大学同窓会木野会

「会報 表紙デザイン」係

表紙制作者

笠松 洋 (76D)

故 田所伴樹氏と関わりの深い笠松氏が、田所氏を描いて贈られていた色紙を御家族からお借りしました。

生前、病院の壁に飾られ病床の田所氏を励ましていたことと信じています。

木野会から

「木野会報は会員のみ配布」

精華大学同窓会会報誌は、会員のみ配布されています。

木野会の運営・会報誌の充実を計るため、一人でも多くの方が木野会に参加されることを望んでいます。この会報誌の届いていない未入会のお友達を是非お誘い下さい。

●入会方法

郵便局備付けの用紙に学籍番号(入学年度・学部・学科)、住所・氏名(旧姓)電話番号を記入の上、終身会費1万円をお振込みください。

口座番号：京都0-42332

金額：10,000円

京都精華大学同窓会木野会 宛

「ご投稿のお願い」

○木野会会報にふさわしい新コーナーのアイデアを募集しています。

○「Who's Who」のコーナーへの投稿・取材依頼、お待ちしております。

○展覧会、個展、イベント等の広報コーナー充実の為情報をお寄せ下さい。

○「This is my space」コーナーにお店や教室等紹介を希望される方はご一報下さい。

「お願い」

卒業生宛の郵便物が転居、住所表示変更などのため返送して頂く場合がかなりあり、多くの卒業生が消息不明のままになっています。お友達の中で「木野通信」や木野会に入会しているのに「会報」等が届いていないという方がおられるようでしたら、必ず同窓会「木野会」事務局まで、その方の氏名(学籍番号)と変更された住所をご一報ください。

また、お問い合わせ等がございましたら、ご遠慮なく「木野会」事務局までご連絡ください。

総会のご案内

「第10回 木野会総会」

と き：1997年11月3日(月祝)

午後2時～

ところ：京都精華大学・黎明館

懇親会：午後3時～5時 特設会場

昨年9月23日に西日本支部が動き始め、本年に入り香川、愛媛、広島等、県単位の分会発足の準備も着々と進み、同窓会「木野会」としては喜ばしい運びとなってきました。第10回を向かえるにあたって皆様のご意見やお考えをお聞かせ願ひ、一層のネットワーク作りを広げてゆきたいと思っています。是非ご参加ください。

大学では例年どおり「木野祭」開催中でもあり、懇親会後は学生達のフリーマーケットに入り込むのも楽しみです。

お友達と一緒に秋の木野、叡電精華大学前で降りてみて下さい。

お知らせ

Who's Whoで紹介した留学生、スーチン・ドロン氏のモンゴル料理の店「モンゴルオルゴ」へ行こう

馬乳酒、サル、見馴れないメニューの文字に、どんな料理がでてくるのか、わくわくしながら草原の国オルゴを感じに出掛けてみてください。

モンゴルオルゴ 大阪市城東区鴨野東2-23-11 (☎06-969-6248)

JR学研都市線鴨野駅東へ1分

京都精華大学情報館 ギャラリーオープニング記念展(1)

洛北木野の色づかい

精華にかかわった人々展・1

京都精華大学が所蔵する大作を中心に、洋画の伊谷賢蔵・福井勇・由里明・金田辰弘・芝田耕、日本画の橋田二郎など京都画壇の重鎮として活躍した作家の仕事をご覧下さい。

■1997年10月12日(日)～11月3日(月)

午前10時30分～午後6時30分

(会期中無休・最終日は午後5時で終了)

■京都精華大学情報館 ギャラリー

Who's Who

●メイクアップ・アーティストしてます。きれいになりたい人、是非連絡ください。☎06-967-0648

水崎幸子(77D 旧姓 手島)

●クラフトのプロデュースをしています。作家活動している方連絡して！(株)はしづめ☎06-924-3650

藤本睦子(74T 旧姓 山内)

●カフェ・マン・レイ ホームメイドケーキとコーヒーの店

☎075-352-2772

前田好雄(70P)

●阪急桂駅西口徒歩2分で画材店「画房巽」を経営！お買い物にきてください。割引します。

早野真美(81P 旧姓 岡本)

●10月にパリで個展をします。

宇田喜久子(72D)

●兵庫県美方郡浜坂町芦屋45『浜坂ユースホステル』ユースの奥さんしています。

中野易子(91L 旧姓 川崎)

●ニューヨーク メトロポリタン美術館を案内してくれたその人はなんと精華の富永隼人と云う方でした。

和納妙子(76E 旧姓 長田)

あげます！

数珠つなぎで登場の川人祥弘氏のプリクラ生写真を1名の方にさしあげます。魔除け?として重宝するとか…

ハガキに学籍・住所・氏名を明記の上、同窓会会報「魔除けプレゼント」係へ

編集後記

情報館も出来たことやし、同窓会も情報化社会に遅れんように卒業生の活躍を速やかに発信できるシステムとネットワーク作りを進めなアカン、皆さん情報待ってますよ。

●京都精華大学同窓会「木野会」

〒606

京都市左京区岩倉木野町137

TEL. (075) 702-5201

FAX. (075) 721-9019